

- 1 開催日時：平成31年3月19日（火）13：30～14：40
- 2 会 場：鎌ヶ谷市役所 本庁舎 6階 第1・第2委員会室
- 3 出席者：①環境美化対策推進協議会会議委員 11名  
菅野勝利会長、塙正浩副会長、関弥朋子委員、片平房子委員、稲葉祐美委員、  
須田康子委員、有山高臣委員、星本慎児委員、皆川洋子委員、曾根哲委員、  
今村喜和子委員  
②事務局 4名  
中川クリーン推進課長、富田同主幹、焼貝業務係長、森主査
- 4 傍聴者 なし
- 5 表彰式  
会議に先立ち、第10回ごみの散乱のない快適なまちづくり推進団体等表彰式を開催  
◎受賞団体：ゴミゼロ隊、鎌ヶ谷橋クリーン奉仕隊
- 6 会議  
議事録署名人の選出：名簿掲載順により、関弥朋子委員、片平房子委員を選出  
その後、会長を議長として議事進行  
  
(1) 報告  
①ごみのポイ捨て防止対策について  
事務局から資料を基に説明  
会 長：何か質問等はあるか。  
委 員：(特になし)  
  
②海洋プラごみゼロ作戦について  
事務局から資料を基に説明  
会 長：何か質問等はあるか。  
委 員：プラスチック製品について、市内のファミリーレストランにプラスチックばしの  
利用等をやめるよう依頼を行うのか。  
事務局：いきなり市民の方や事業者に対して、今日からプラスチック製品の使用をしない  
ようにとの依頼は難しいと思われる。「どんな減量をするか」、「海に流れるプラ  
ごみを減らす」ための個々の取組が繋がっているという認識を皆さんが持ち、で  
きるのところから取り組んでいただきたいと考えている。例えば、定食屋でのプラ  
スチックばしやストローの材質の変更、レジ袋を利用するかの確認をするなど、

差はあるかもしれないが、その先には、この運動の充実した成果に繋がるのではないかと思っている。

## (2) 議題

### ①平成31年度ごみゼロ運動の実施計画について

事務局から資料を基に説明

会 長：何か質問等はあるか。

委 員：新しい元号が未確定の時期にチラシの作成を始めるのであれば、西暦で記載してはどうか。

委 員：実施日が分かれば、年の表示が無くとも良いのではないか。

委 員：エアコンが対象外とあるが、室内機及び室外機も含まれるのか。

委 員：室内機も室外機も対象である。

委 員：冷蔵庫も今は小さなものもある。以前はテレビ等家電製品もゴミとして出され、回収されると思っている人もいた。

委 員：捨てる人は確信犯である。どのように書いても同じである。

委 員：数年前から比べると、ごみゼロ運動時のごみは減っている。

副会長：実際に配布するチラシは、もっと濃く表示されるのか。

事務局：今回提示した資料は、印刷したものを再度印刷している。については、配布する際のチラシは濃い表示のものとなる。なお、紙も例年と同様に水色等の色のついた紙を使用し、この案よりも目立つチラシになる見込みである。

会 長：チラシの表面（案）に、「市指定の燃やすごみ用の袋：25リットル、45リットル」とあるが、販売の際は、「小」、「大」、「45リットル」という3つの名称で表記されていると聞いた。

事務局：この「25リットル」は「大」という名称で販売しているもので、25リットル相当にあたるのでこの表記とした。

委 員：「25リットル」が、「大」のごみ袋にあたるという認識はない。

委 員：簡潔な表記の方が、わかりやすいのではないか。

会 長：「大」と「超大」または「特大」という表記はどうか。

事務局：「大（25リットル）」と「45リットル」という表記に訂正ではどうか。

委 員：(了承)

会 長：何か質問等はあるか。

委 員：(特になし)

## (3) その他

### ①ごみの散乱のない快適なまちづくり推進地区について

事務局から資料を基に説明

会 長：東武鎌ヶ谷駅周辺は推進地区か。

事務局：新鎌ヶ谷駅周辺のみである。

会 長：効果はあるのか。

事務局：パトロール時における推進地区内の路上喫煙者数は、少しずつではあるが減少

傾向にある。路面シート、横断幕、看板の設置もしており、路上喫煙禁止区域のモデル地区として、意識啓発を進めていきたい。

会 長：何か質問等はあるか。

委 員：(特になし)

## ②次回会議について

事務局から資料を基に説明

会 長：何か質問等はあるか。

委 員：電子メールで通知をして欲しい。

事務局：ご希望のある方は対応させていただく。

委 員：(特になし)

## 7 その他

副会長：昨日3月18日の読売新聞に「高齢者の『ゴミ出し支援』」についての記事の掲載があった。環境省では指針を作成するとのこと。いずれは課題になると感じた。

委 員：鎌ヶ谷市では、高齢者のゴミ出し支援について、取り組んでいるのか。

事務局：現在、本市ではこの件については制度がない。

委 員：自分の両親が西東京市に住んでいたが、市が部屋までゴミの回収に来てくれた。自分も高齢になったら、同じようにゴミ出しについての支援が必要になるかもしれないと思っている。

委 員：ゴミを自宅の門の前に置いておけば、取りに来てくれる制度があるらしい。

副会長：記事によれば、流山市は業者が、福島市は職員が対応しているらしい。

事務局：いろいろなやり方があると思われる。地域性や環境も含めて、鎌ヶ谷市にあった良い方法を今後は見つけていきたい。

会 長：南部地区社会福祉協議会が、支援者を募集しボランティアで取り組んでおり、延べ200件の利用があった。

委 員：高齢者支援課が民生委員を通じて高齢者に対してアンケートを実施した。しかし、地域の方の援助などもあり、要望は少ないらしい。なお、ゴミの収集のほかに、安否確認も行ってはどうかという話もある。ゴミステーションに出す時間の関係で、ヘルパーは、ゴミ出し支援において、その利用時間と合わなかったり、介護の決まりなどもあり、依頼を受けられない場合がある。よって、自治会や近所の方などによるゴミ出し支援の必要があると考えられる。

副会長：仙台市は、行政が町内会やボランティア団体に対して助成金を出している。

会 長：これからのボランティアは、担い手不足もあるので、有償の時代である。

そのほかに特に質疑等なく閉会

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するために次に署名する。

平成31年3月26日

氏名 片平 房子

氏名 関弥 朋子